



# 夢に向かって

子どもたちに安心してもらえる存在に――

佐藤 優心さん (県北中3年)

第21回

私の将来の夢は、子どもに関わることができる仕事に就くことです。特に保育士や幼稚園の先生になりたいと思っています。きっかけは、自分が幼稚園に通っていた時に、当時の担任の先生にとっても優しくしてもらったことです。自分も「こんな先生になりたい」という強い憧れを持ちました。それと、もともと子どもが好きだったこともあります。子どもは無邪気でかわいくて、一緒にいると癒されます。職場体験ではなくにみ幼稚園で子どもたちと触れ合い、とても貴重な体験をすることができました。

今は志望校合格に向けて、受験勉強を頑張っています。

高校でもソフトテニスをして、より良い成績を残せるようにしたいです。将来の夢を実現するため、自分よりも小さい子と関わる時には、優しく丁寧な言葉をかけるように気を付けています。夢がかなったら、いっただけで子どもたちが安心してきて、一緒にいて楽しいと感じてもらえるような先生になりたいです。そして、どんな時でも周りの人たちに優しくすることができて、困っている人がいたら見過ごさず、進んで助けることができるような大人になりたいと思っています。夢の実現のため、これからも努力を続けていきたいです。



町長コラム

ま 真こらむ

【第30回】

## 101年目のあんぽ柿

12月14日。5時50分、ホテルを出る。伊達市長、桑折町長、JAふくしま未来組合長たちと伊達のあんぽ柿トップセールス。東京・大田市場、豊洲市場、量販店で。大田市場は甘酸っぱい香り。柑橘類、リンゴ、ブドウ、ゴボウ、ニンジン…。いつもながら量と種類は圧巻。6時40分、特設ブースで宣伝会。50人ほど参加。市長と組合長が「農家の努力で今年も良品揃い」「希望価格で買取り、販売を」と呼びかける。側にいた業者に「あんぽ柿はどう?」と聞くと「この時期の品。一定の根強い顧客はいる」と。また、市場関係者からは「高値の年内出荷の増をお願い。年明けは価格が下がる」と。

2つの市場の後、量販店でPR販売。買い求めるのは高齢者が圧倒的。一人の若い母親が、試食用に切り分けたあんぽ柿を子どもに食べさせようとする。嫌がる子ども。食べない。4、5歳のころ、初めてプリンを食べさせられたときのことを思い出す。食べられなかった。あんな感じなのかな。今はプリン大好きだけど。先日の「スキフェス」でも、小学生は「食べたことがない」と。ひょっとして、この子たちの親も食べたことがない? 101年目のあんぽ柿。上生菓子の風味。食文化。伝えるにはどうする。給食で出してみるか…。

同じころ。国見町のあんぽ柿と日本酒「あつかしん」が台湾に渡った。風評対策の催し「福島農産物フェア@台北」。結果はまだ届いてないけど、「真好食(まじ、うまい)!」と言ってくれたかな。あんぽ柿の町独自の新たな取り組みにつながればいいな。



引地 真